

## 市民参加実施記録

案件	第七次伊達市総合計画策定に係る住民説明会（地区無指定）
市民参加の方法	説明会
実施日時 及び場所等	・平成30年7月29日（日） 15時00分～17時00分 ・市民活動センター多目的室
所管部課名	企画財政部企画課
<p><b>【概要】</b></p> <p>&lt;出席者&gt;</p> <p>市：市長、副市長、教育長、総務部長、大滝総合所長、健康福祉部長、経済環境部長、建設部長、建設部参与、教育部長、教育部参与、議会事務局長、企画財政部長、企画財政部参与、企画課長、財政課長</p> <p>住民： 30名</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 市長挨拶</li> <li>3. 総合計画概要説明</li> <li>4. 意見交換</li> </ol> <p><b>【住民】</b></p> <p>まちづくりの「自分ごと」化に非常に興味がある。今回パブリックコメントを公募するということだが、このまちづくりの「自分ごと」について、市民がお互いに、自分たちが伊達市をつくっていくのだということ発信していけば良いのではないかと。そして市民が未来構想について考え、意見を出し合えば、相反する意見もあるだろうが、市役所側と市民とがもう少し近くなれるのではないかと。</p> <p><b>【市長】</b></p> <p>正直、パブリックコメントを公募してもなかなか集まらない。皆さんが来て、意見を言うことによって変わることがたくさんあるが、なかなか集まらないのが実情である。集め方を工夫する必要があるのではないかと。意見を聞く際には、ある程度市民のみなさんをお願いをして、参加していただくという仕組みでやらないと、現実にはなかなか「自分ごと」化しないというのが現状である。</p> <p>私が市長になって一番思うのは、いろいろな施策に関して、実は民間がやるべきことが多いということである。例えば6次化について、6次化をするのは民間の事業者を含めてだが、なかなか民間から手が挙がってこない。我々がお願いすると、ある程度手取り足取り市が支援しなければやらないと言われることも多い。こうした点が、我々が行政として取り組んでいくうえで難しいと感じているところである。</p> <p>市民参加に関しては、コミュニティの問題が大きいと考えているので、コミュニティの有り方について、もっと市民が参加できるような仕組みを考えていきたい。</p> <p><b>【住民】</b></p> <p>私は、2015年から有珠のまちの素晴らしさを広める活動をしている。2016年には有珠善光寺門前市に参加して、観光マップやご当地お守りなどを作って販売してきた。有珠は、観光資源として人を呼び込めるまちである。有珠の良さを広めて、より多くの人に来ていただくことが目標である。</p>	

また、有珠には拭くと願いが叶うという延命自蔵尊というお地蔵様がいる。そのお地蔵様を拭くお守りを作り、売上で活動費を捻出したいと思っている。これは誰でも作れる商品なので、地元で作り、雇用に広げるなどして、産業にしていきたい。これは伊達の藍染を使っており、地域PRという意味でもなんとか活動を広げていきたいが、実際はほとんど一人で、あとは地元の方たちに手伝っていただいで進めている。こうした活動をやっていることを広めていただけると非常に助かる。

#### 【市長】

我々は、こうした具体的に行動してくれる方に期待している。先日も、大滝でハチミツを作っている方が来られて、今後どのように活動を進めていくか相談を受けている。

有珠は、昔は民宿が随分あったが今はあまり見なくなった。地域のPRという点で、宿泊体制の強化をし、長期滞在型の宿泊システムができれば良いのではないかと考えている。活動については、相談していただければ市でどのような支援ができるか検討したい。可能であれば、地域の自治会にも相談していただけると、我々も支援をしやすい。その際には、今我々が示している総合計画の基本構想、基本計画に沿っているのであれば、更に支援がしやすい。具体的に相談していただければ、我々も取り組みやすいと思う。

また、有珠にはサッカー場とパークゴルフ場がある。旧有珠中学校の校舎を活用して、宿泊施設として活用できないかと考えている。サッカーで来る方は多いが、どちらかというと子供が多いので、高い料金では泊まっていただけない。しかし、低額にするためにはどうすればいいのかという問題もある。

また、有珠バカンス村プロジェクトのお話もあったが、以前、子ども達からレンタルサイクルに関する提案もあった。こうした子ども達の意見も含め、有珠のことを有珠の皆さん自身が考えるというふうに繋がれば、我々は支援がしやすい。具体的な話があれば担当に連絡いただき、私を含めて関係者と相談し、また有珠の自治会の皆さんにも相談していければいい。

#### 【住民】

未来に向けた伊達市のビジョンは、非常に素晴らしいと思う。

避難所の案内板について、そろそろ有珠山の噴火が近づいているが、もうすでに避難所が閉鎖されている（学校が移動している）にも関わらず、まだ案内板が残っているところがある。伊達市の市街はわからないが、長和、上長和、村界に至ってはこうした状況が散見される。役所に言っても直らず、おそらく人手が足りないとか予算がないとか言われるだろうと思う。来年からの10年間における伊達市のビジョンは、立派なものできているが、この案内板のように以前から言い続けられているものが直されなければ、新しく来た人がここに逃げればいんだ、と間違える可能性がある。

#### 【市長】

水害なのか津波なのか、有珠山噴火なのか、災害の種類によって避難所はそれぞれ変わる。また、過去と今とで違うのは、かつては若い人が多かったので、避難場所が遠くても抵抗はなかった。ところが前回の2000年噴火の頃から、取り残される可能性の高い、車を持たない人が増えてきた。2000年噴火の際に、避難した人を対象にアンケートを実施した結果、平日や土日、時間帯によって、平日ならば車を使えないなど、避難に支援を必要とする人の数が違うということや、当時の有珠では、最大22台のバスが必要であることがわかった。現実には22台のバスを一気に集めることは不可能なので、一次避難所、二次避難所という考え方で整理していかなければならない。

また、最近2年間は水害が増えている。去年紋別川の上流部で、国有林の山が崩れ大量の木が川に流れ、それが橋に引っかかって水があふれた。局地的な豪雨を想定するのは難しいが、

実際に被害が起きたので、対応をとらなければならない。

そのため、3パターンくらいの災害を想定しなければいけないのと、更にそれを細分化して避難所の有り方、一次避難、二次避難という形をイメージしているが、とても複雑で、すべて完璧にできていないのが現実である。今まで以上に災害の頻度や種類が増えてきたことが大きな課題であるので、ご指摘のとおり人手不足とか予算不足とか言わないように、できるだけ早く整理していきたい。

#### 【住民】

まず、一時避難場所の明示と、既に使えないところは案内を無くしていただきたい。また、災害のことで、実際に昨年一昨年と台風の被害で屋根が飛んだとか、窓枠が飛んで水浸しで全リフォームが必要だとか、屋根を交換しなければならないという人が多々いたが、その人たちが市役所に支援を求めると、個人でやってくれと言われたそう。市役所が支援できるとしても、見舞金1万円くらいだと言われたそう。今年も大きい台風がくると思うが、その時に伊達市からの補助として、10万でも20万でも出せられるような予算を組んでいるのか。組んでいないのであれば、都市計画税から上がってきた分を、災害支援用にストックしておくというのも一つの手段なのではないか。

昨年一昨年の台風による被災者を見ていると、市でもう少し支援できないのかという気持ちになる。皆さんの税金なので一人一人に出せないのはわかるが、せめて屋根が飛んだとか、水で2階でも1階でも暮らせないような人には手を差し伸べるような予算を残しておくべきではないか。そうした支援についても考えて欲しい。

#### 【市長】

都市計画税というのは、特定の区域にある不動産にかけている税金なので、税のかかっていない区域の人に災害に対する支援をするものではない。例えば、市は下水道や生活基盤にかかるとものに一般財源を使い、足りない分を税で補う仕組みなので、都市計画税というのは災害に対する補助とは別と思ってほしい。市で災害共済をやるというのであれば話は違うが、これには共済制度がある。それぞれ皆さんが自分の考え方、あくまで任意で必要かどうか判断して入る方は入る、ということになると思うが、その仕組みに対し、市が政策的関与をするのは困難だと思う。

#### 【住民】

「自分ごと」とあるが、「自分ごと」を達成しきれない部分、諦めなければならないことがあると思う。例えば、自分の住む地区のことを見て一番わかりやすいのは、冬の除雪について、普段すごく良いことを言っている名士っぽい方が、自分の敷地できっちり区切り、歩道も含め敷地外は一切雪かきをしていない。逆に、自分の周りの人は皆、歩道も高齢者の家の前も雪かきをしており、高齢者の方はすごく助かっている。市役所の除雪が遅い、来ないなど、何でも市のせいにするのはどうかと思う。

また、まちづくりについての考え方は、年代別に違いがあると思う。70～80歳の高齢者が考えていることと、このまちでこれから仕事をして子どもを育てていこうと思っている20代、30代、40代とは違うと思う。計画策定の際に、年代別に分けて意見を募るようなことはしなくても良いと思うが、実はあまり意見を発せないという20～30代や、もしかしたら10代の方でも意見を発したくても発せないという人がいると思う。

子育て支援についても、保育所問題で困っている人が自分の近くにいる。自分が小さい頃は、職場に乳母車で赤ちゃんを連れてきている人がいた。それを周りほうるさいとは言わず、中にはあやしながら仕事をしているパートの人もいた。なかなか民間企業で実施するのは難しいかもしれないし、批判を受けるかもしれないが、市役所でこうした赤ちゃんを職場で受け入れる

取組を始めたら、企業に広まるかもしれない。

私が今一番気になるのは、人口減少である。自分の友人も札幌に出て仕事をしているとか、地元で企業経営していたものの、結局市を出た人が何人かいる。先日テレビで、田舎でもメールやデータのやり取りだけでできる仕事があり、福利厚生がしっかりしていればどんな町でも働けるということ売りになっている中小企業が多いと見た。伊達は、風光明媚で海も湖もあり、10分あれば釣りに行けるようなまちなので、大手企業を呼ぶのではなくて、そうした中小企業を誘致するのも良いのではないか。

#### 【市長】

伊達の弱みは住宅の家賃が非常に高いことである。さらに、2～3年前に空き家調査をしたが、思った以上に空き家がなく、あったとしても旧耐震が非常に多かった。新耐震のものは流通しているの、売れている。空き家がないということと、アパートの家賃が高いということは課題である。

現在、いくつか企業誘致を実際に進めており、何社か来てくれそうだが、企業誘致の一番のポイントは正社員の住宅の確保である。会社が安定したら社員も住宅を建てるかもしれないが、最初はまず社宅かあるいは自分でアパートを借りるかして伊達に入ってくる。しかし、その時の供給量に不安があり、この住宅整備に関しては政策的にも難しいと思っている。例えば地元の業者さんに、市の仕事ではないけれど、業者さん同士で結束して、空家探しやリフォーム等をやっていただきたい。こうした動きが、人が伊達に移住してくる力になる。

#### 【住民】

いろいろな場で市の方の話を聞いているが、市の若手職員を見ることは少ない。本日登壇している職員は10年後もいるのか、と疑問に思う。計画を3年ごとに更新するという話もあったが、その引き継ぎ方が大事になる。10年という長期間の構想に取り組んでいる。市役所の中でどのように若い職員へ周知しているのか、また、異動もある中でどのように引き継ぎ等を行っているのか知りたい。市長以外にも、他の部長さんからも引き継ぎ等について話を伺いたい。

#### 【総務部長】

総合計画の期間が10年という点に関して、まちづくりの方向性や目標がないと、そこに向かって陣容を固めるにあたっては統一的な仕事ができないので、10年という長期間で策定することは必要だと思っている。今回の説明会に出席しているのは市の部長職で、確かに50代後半のメンバーである。ただ、実際の計画策定に当たっては、課長職は課長職の分野で協議しており、それぞれの事業担当者は個別の事業の積み上げを行っている。役所内では、こうした計画の基に事業を進めていくという意思統一はできている。我々としては、これから後輩に引き継いでいかなければならないので、いろいろなタイミングで話をしていきたいと思っている。

#### 【住民】

市だけでは力が弱く、公という冠がつく限りはできないことが多いと思う。市側と市民とがうまくやっていく、仲良くするにはどうしたら良いと思うか。

#### 【市長】

昔と今とで大きく変わった点は、チャレンジする人が大幅に減ってしまったことである。かつては商店街に個人事業主がたくさんいた。そういう方が、ライオンズクラブやロータリークラブ、青年会議所等、いろいろな団体に入ってまちづくりをやって来ていた。最近は、そうした人が圧倒的に減ってしまい、皆サラリーマンになってしまったので、なかなか日常的に外に出られないという方も増えてきた。

また、拓銀破たんなど経済の大きな流れの中で、安定経営を重視したチャレンジしない経営者が増えた。すると地域間競争が必要になり、それぞれの地域が自分のまちを良くしたいと頑張る。しかし、役所だけで地域間競争を起こすことはできず、実際には民間の力を借りないとほとんどできないため、チャレンジする人が必要である。チャレンジする過程で行政とコミュニケーションが取れれば、我々行政側にも民間の思いは伝わってくる。話し合いだけではなく、苦情も遠慮なく言っていただきたい。苦情を受けることで課題点の把握もでき、また苦情を言っていないと役所は動きづらい。本当はやりたいと思っても、やってくれ、という声がないと政治は動けない。市民の皆さんは、何かあったら遠慮なく言って欲しい。皆さんの声が、良い方向へつながると思う。

#### 【住民】

本日配布された10年間の総合計画（案）は、非常に立派である。伊達生まれ伊達育ちの人には、年齢に関係なくこの計画書を読んで、推進・実行してもらいたい。

本日の説明会に、仲間に行かないかと誘ったら足がないので行けないと言われた。私は東日本大震災の時に伊達に来て、今もそのまま伊達のお世話になっている。市民は、年齢に関係なく自分の住んでいるまちに関心を持たないとダメだと思う。自分のまちは自分でつくるという意識が必要である。先ほど市長も言われていたが、苦情も言わないといけない。陰では言うが面と向かっては言わないのが人間の性である。

総合計画は、伊達生まれ伊達育ちの人に進めてもらいたい。それを期待している。

#### 【企画財政部長】

計画策定に当たっては、今回のような説明会のほか、パブリックコメントを募集し、この後の審議会で皆さんの意見を通じて作り上げていくことになる。その後、できあがった計画を市民の皆さん全員に見て頂けるような方法を考えていかなければならないと考えている。その際は、皆さんにも協力していただきたい。

#### 【住民】

昨日跨線橋を渡って西浜へ行ったが、道路ができておらず、年寄りには危なくて歩けない。せっかく跨線橋ができたが、それよりも道路を先に整備していただかないと歩けない。

また、私は市民活動センターができる時に、2階建てか3階建てにして図書館をここにもってきてはどうかと市に提案したら、私一人の考え方ではダメだと言われた。市営住宅の第1号棟のところに本棚があり、私も何冊かそこに置いている。せめて1か月に1回くらいでもいいので、本の貸し出しができるようにしてほしい。

カルチャーセンターに機能を集中するのはいいが、山下町や駅前の整備もしてほしい。

#### 【建設部長】

現在集会所を建設しており、その工事が終わったら今年度の予算で道路も整備する予定になっているので、もう少し待ってほしい。3月末には道路整備ができる予定である。

#### 【教育部長】

集会所に置いてある図書は、地域文庫という形で置いており、定期的に交換をしていると思う。置いてある本が全然変わっていないようであれば、山下町の集会所の本について図書館に確認し、交換していないようであれば、定期的に交換していきたいと思う。

#### 【住民】

私は、障がいのある方を支援している。伊達市内で57ヶ所グループホームを持っており、空

き家対策になるかはわからないが、借り上げをして地域に根ざしてきた。今回の総合計画における福祉分野で、私たちができることとして、まずは高齢化対策があげられる。次に人材の確保があげられる。障がいの有る無しに関わらず、すべての伊達市民がお互いに交流をしなければいけない時代になってきている。福祉分野について、今後どのような方向性をもって取り組んでいけば、市民を巻き込んだ事業展開ができるのか。

#### 【市長】

現在、国が抱える一番の問題は社会保障費である。市の予算を調べたが、扶助費（国でいう社会保障費）の年間の市の負担は、だいたい1年間に1億円増えている。10年間で10億、市の負担が増えた。その間の税収入はほぼ横ばいであり、国からの交付税は最近ずっと減っている。扶助費が市の予算上の制約になってきているのは事実である。

障がいのある方をどのように支援していくか、考えなければならない。一方で、ここまでサービスをやる必要があるのかという部分もある。サービスにメリハリをつけながら、効率的に予算を使う必要があると思う。

例えば介護でいうと、機能回復のためのリハビリがある。市民の皆さんが自らの意思でリハビリに取り組んでもらう必要があり、行政は市民に対していかに身近な立場でそれを支援できるかを考え、取り組んでいる。総合計画にも、健康でいるためのいろいろな取組を盛り込んでいる。

また、福祉分野で働いている人の給料が低いという課題もある。この対策として、社会福祉協議会を含めて今後検討していただきたいのが、働いている人の家賃をいかに下げることができるかという視点で取り組むことである。例えば、公営住宅を1棟ごと社協で買い取って安く貸すという取組があげられる。行政は、特定の団体や個人に権益を与えることはできないが、団体として、社協としてそうした取組をすることに対し、市は支援することができる。アパート暮らしの方は家賃が高いので、家賃を低くするための支援ができるのではないかと考えている。

#### 【住民】

二点意見がある。一点は大滝区、伊達市も含めてだが、移住に関することである。今後、大滝に新しい学校ができる。10年後、素晴らしい教育をしている学校がある大滝に、移り住んで子どもを通わせたいと思う方がたくさん出てきてほしいと思う。その際、現在市営住宅はたくさん空いているが、入居条件等のハードルが高い。伊達市内の民間アパートに1年住んでからでないと大滝区の市営住宅に入居できないということで、実際大滝区への入居が困難であったという話を聞いている。そうした条件を緩和して、少しでも人口が増え、学校も活性化していくような方向性を示していただきたい。

もう一点は、訪問医療、訪問診療に関することである。先日、福祉課の市民講座で、最後まで自分らしく住み慣れた自宅で過ごすためにはという講座を受けた際に、現在は半径16キロメートルでないと訪問診療は原則出来ないという条件があり、大滝区はその条件外になっているという説明を受けた。10年後、大滝区でも最後まで自宅で過ごせるようになるには、住民は一体どのように活動していけばその16キロメートルの条件を乗り越えていけるのか、アドバイスをいただきたい。

#### 【市長】

公営住宅の件について、我々は公営住宅法という法律のもと動いている。公営住宅担当の住宅局の課長が北海道に来た時に、意見交換をした。例えば、公営住宅に入るためには所得区分があり、誰でも入れるわけではない。非常に細かく規定されており、空き部屋があるからすぐに入れるというわけではない。そのため、国土交通省に問い合わせをしながら、できるだけ条

件を緩めていきたいと思い取り組んでいる。ただ、抜本的なものは変わらないので、公営住宅を外して公営住宅の財産から普通財産に移し、ルールを変えようかとも考えているが、公営住宅の補助金の年限が長い。公営住宅を建てる場合には、半分は補助金（現在の交付金）をもらってやっており、もう半分は皆さんの家賃で返済をするというルールになっている。その際の建物の償却年数が長い。それだけ立派な、しっかりしたものを作っているという意味でもあるが、買い取るとなると、補助残を計算しなければいけないので思いのほか難しい。

現在、市は大滝の人口を増やそうと思い、定住促進住宅というのを32戸造った。これは同じ住宅だがルールが違う。伊達はダメだが大滝地区は過疎債というものを発行でき、住宅のルールも比較的簡単で、こちらの方がお得なので採用した。大滝区に子ども達を増やすために公営住宅のルールを変えてくれという要望については、我々も同じように思っているので、できるだけ緩和して多くの人が入れるようにしたいと思っている。

一方では、公営住宅は縛りが大きすぎて、違うルールの住宅を建てられないか検討した方が、トータルとしては良いのではないかと思っているのもう少し時間をかけて検討していきたい。教員住宅も民間に売却するなど、人口を増やすためにさまざまなことに取り組んでいきたい。

#### 【健康福祉部長】

訪問医療を行って、看取りを責任持って見守るお医者さんは、洞爺湖町にある聖ヶ丘サテライト病院と室蘭市の本輪西にあるファミリークリニックにしかいない。訪問診療は半径16キロメートル以内ということで、伊達のまちはどうにかカバー出来るが、大滝には至っていない状況である。この総合計画にも、地域の医療体制を充実させようということが書かれている。今、国は高齢化を迎え、自分が終末をどのような形で、自宅ないしはグループホームで迎えるのか、施設なのか病院なのか、ということを選ぶことが大事になっている。終末に関して本人が決めた場合に、行政、医療機関（病院、歯医者）、介護の事業者も一緒になって考え、そのニーズにどのように応えるかを検討することになっている。

実際に、伊達市内では平成28年から医療、歯科医療、行政、介護の事業者が集まり、伊達における医療の介護連携をどうするか、医療から介護にいく、介護から医療にいくということスムーズに行い、市民の方が不満なく、自分らしく生活できる体制をとろうということで多職種の勉強会を継続して開催している。その勉強会において、看取りに関する学習会を地域でもやりたいという意見が出ている。今後は、こうした地域での取組を強化するべきである。

市もこれからの10年、総合計画の中で具体的にどのような取組をするのか、多職種の連携も進め、大滝も含めた伊達の地域において、どのように取り組んでいくかを考える必要がある。

市内の胆振西部医師会に加盟しているお医者さんの中で、地域に目を向ける、地域で活動するという人が出てくれば良いが、出てこないかもしれない。その場合の代替手段も検討していく必要がある。医療関係の事業所、医療機関の方々には、一緒に検討していただければと思っている。

#### 【住民】

私は、今年の春からアダプト・プログラム、まち美化の活動について団体登録をした。伊達市は、アダプト・プログラムの導入効果について、どのように思っているか聞きたい。だて歴史の杜カルチャーセンターのところを登録しており、活動する限りではほとんどゴミもなく、本当に綺麗なまちなんだと活動を通して初めて知り、自分のまちを知るというきっかけになっている。また、アダプト・プログラムの手引きの導入効果の中に、美化効果はもちろんだが、新たなコミュニティの形成やふれあいといったことも記載されている。今後必要とされるコミュニティの形成という点でも、きっかけ作りとしてとても良いと思う。ただ、一つ疑問がある。アダプト・プログラムのメリットの一つ、社会貢献PRという部分で、活動看板の設置と記載

されているが、それを見かけることがない。担当職員にも尋ねたが、具体的に多数あるというような回答をもらえなかったので、状況を教えて欲しい。

また、自分は医療職であり、長生大学に長年通っていた患者さんがいる。その患者さんは、その時のことをすごく楽しそうに話してくれる。そこで知り合った仲間と今も連絡を取り合っていたり、大学の行事のことを楽しく話してくれる。自分も今度参加する予定であり、生涯学習の点で、長生大学は良いものなので継続して欲しい。生涯学習コーディネーターや、放課後子ども教室の話も聞いたことがあるが、そうしたコーディネーターの育成の部分で、伊達市はどのように進めているのか教えて欲しい。

#### 【経済環境部長】

アダプト・プログラムは、まちの清掃がスタートになっているので、その意味では市民の皆さんで自分たちのまちを綺麗にしていきたい。アダプト・プログラムを通じてコミュニティを形成するなど、社会貢献の意味もあり、市民の皆さんに参加をお願いしている。現在は、50数団体が登録している。任意でやっていたりしている団体もあれば、自治体、地域の中で自分たちの地区を自分たちで綺麗にしようと取り組んでいただいている団体もある。

看板については、ポイ捨て防止の啓発等が主たる目的である。そのため、社会貢献という観点だけではなく、皆さんもポイ捨てはしないでください、というPR効果の方が大きいと感じている。

以前は、地域の自治会なども含め、こういう形でやりたい、登録したいという団体が多かったが、最近は新規登録が少なくなっており、団体内の参加人数も減り、登録から抜ける団体も増えている。地域の美化については、自分たちで綺麗にしようと取り組んでいただけるように、PRをしていきたい。

#### 【教育長】

長生大学を含めた社会教育について、長生大学は、市の生涯学習課に嘱託職員を置き、その職員がコーディネートをしている。豊かな学習活動が継続されるように、長生大学の中に自治会制度を作り、嘱託職員がコーディネートする傍ら、自治会の役員が一生懸命いろいろなプログラムの準備を進め、継続している。課題は加入者が減ってきていることである。活動内容は非常に活発で、学長である自分も楽しませてもらっている。長生大学は何としても継続していかなければならないと思っている。

放課後子ども教室については、昨年度から伊達西小学校でスタートし、今年度は長和小学校にも設置した。できれば年間1校ずつ増やしていき、市内のすべての小学校に放課後子ども教室を置きたい。放課後児童クラブの管理は、今年度から教育委員会に事務移管したので、今後は放課後児童クラブと放課後子ども教室とで、共通メニューを設定するなど整理をしたい。放課後児童クラブは、入ってくる子どもたちに一定程度の制限があるが、放課後子ども教室は希望者全員が入れる。そうした違いをうまくリンクさせながら、放課後の子どもたちの健全育成、安心安全な生活、学習、いろいろな体験、伊達の歴史文化を学ぶ機会の提供など、さまざまな取組をしていこうと考えている。

しかし、今後、放課後子ども教室の設置小学校を増やしていくことを考えると、今のコーディネーター数では足りない。退職された先生方をお願いしているのが現状であるが、もっと広範囲に、さまざまな年代の方にコーディネーター、あるいは指導員として入っていただきたい。これからは、市民の方にこうした取組をアピールしながら人材を募っていきたいと考えている。ただ、市が教育委員会としてコーディネーターの養成講座をするわけではなく、実際にコーディネートしながら一緒に学んでいただくという展開で継続している。



### 【住民】

伊達市総合計画P6の、基本計画のまちづくりの基本目標と分野別施策の概要を見て、とても素晴らしいものだったと思った。これを全て達成することができれば、伊達市は他のまちに負けないうちも素晴らしいまちになると思ひ、この取組に参加していきたく思ひ。

この分野別施策は、同時に進めていくものなのか。施策の数が多いので、同時に進めていくと何か一つが漏れたり、おざなりになってしまうのではないか。素晴らしい目標なので、達成できないという結果になってはもったいない。10年という期間があるので、この目標の中でこの年はこれとこれを重点的にやろう、来年はこれを重点的にやろうと分けて行った方が達成しやすいのではないかと思ひ。

### 【市長】

施策の実施については、いろいろな状況が考えられる。例えば、国が予算編成する場合にはいろいろな計画方針を出す。それによって予算がつきやすいものがあったり、あるいは、今までなかったが民間企業がこういうことをやりたい、というものが生まれて、伊達市の計画に則ったものを実施できる可能性が広がるかもしれない。

個別の政策をやる場合には、基本目標、分野別施策に則って、実施計画は3年毎に作る。その中で、予算や民間の状況等、客観的条件から今できるものを判断し、実施するため、すべての施策をいっぺんに実施するのではない。10年間の中で、強弱を付けながら取り組んでいく。

重点施策は、市の考え方を持って優先的に実施する。

### 【住民】

市の目指す方向性を聞かせて頂き、自分でも何かできる事はないか探そうと思ひ、今回参加した。自分の同世代の意見も交えて要望を伝えたい。

自分は9年間ほど京都に行っており、その後仕事の関係でUターンした。大学4年の時に、就職活動で周りの同級生ないしは伊達の友だち、高校の友だちの就職活動を見てきたが、やはり伊達には企業が少なく仕事がない。雇用に関して、これから対策されると聞いたので、ぜひお願いしたい。

最近の若者はお金がなく、お金があっても払わないといけないものが多い。例えば、教育費や生活費など、ランニングコストで払わないといけないものが多い。それらをもう少し支援していただくと、若者がより生活しやすい環境になるのかなと思ひ。

また、地域のつながりがあり過ぎると感じる。最近の若者は、人間関係のしがらみや面倒臭さというものを感じていると思ひ。その点を踏まえ、民間の人たちにできる事があるのではないかと思ひ。

市でできる事は限られているという話だったが、フェイスブックの情報発信のほか、ツイッターやインスタグラムなど、無料で更新できるものをどんどん使って行って欲しい。若者は、そうしたツールを使って情報をすぐにキャッチできるので、どんどん情報発信をしていただきたい。

自分は某寺院で働いている。いろいろな地域コミュニティに関するイベントなどに、積極的に参加するようにしている。8月には街コンを開催しようと考えているが、情報をあまり発信できずにいる。市には、良い情報があれば、インターネットをメインにしてどんどん情報発信をしていただきたい。

### 【市長】

これまでの説明会の中で、大谷高校の教師が、教え子に、企業がなかったら起業しろ、と教えていたという話があった。行政の立場としては、起業する人を支援する仕組みを考えていかないとけない。いろいろな情報を含め整理をし、財政的な支援も含めて起業について考えて

いかないといけない。

我々の一番弱い点は、情報の発信の仕方が非常に下手ということである。これは移住政策にも係わり、起業の話にも係わる。また、よそ者の視点も非常に重要である。長い間ここに住んでいると、伊達の良さがなかなかわからない人もいる。知ってもらうためには情報をいかに効果的に発信できるか、情報をいかに受けることができるかが重要だと思っている。

この総合計画に合わせる形で、いろいろな情報の発信をしていきたい。観光で言えば、今まではコマースをばんばん流して客を呼び込んできたが、最近はネットでわずか4部屋しかないホテルが良いと口コミが広まることもある。いろいろな情報が伝わっていくので、広告費がタダのインターネットツールを使って情報を伝えてくれることにより、そのホテルの予約が埋まる。逆に「隠れ家的な」という言葉にもつながる。

我々は伝えるという力をもっと磨き上げていかないといけない。情報発信は、まちづくりの問題にも関わるので、やれるだけ精一杯やっていこうと思う。そのためには若い人の意見を聞き、活かしていければ良いと思う。

#### 【住民】

自分の友人を伊達に連れてきたときに、食べ物がおいしくて良いまちだと言ってもらえる反面、これだという観光資源、目立つものがない。洞爺湖には、海外からも観光客がたくさん来ているにも関わらず、すぐ隣の伊達にはあまり来ない。観光面を含めて力を入れていただければ、活気が出るのではないかと思う。

#### 【市長】

伊達にはスターがないという話をよくする。まちづくりにはスターが必要である。例えば、伊達に来てぜひこれだけは見て行きたい、これだけは体験して行きたいというスターがないとなかなか爆発的に人気は出ない。実は、いちご農家の取組はスター創りの一つだった。振興するというのは、単に所得が増えるだけでなく、まちとしての名前を売りたいという強い思いがある。スター創りをするために、現在秘策を練っており、伊達の振興に役立てたいと思っている。

#### 【住民】

北海道歯科医師会は毎年、いろいろな場所で野球大会を開催しており、総勢600人以上が参加すると思う。室蘭支部開催の時に、室蘭と登別と伊達にPRの冊子を配布していただけないかと回ったが、伊達では某商工会議所の人に、「来るか来ないかもわからないのに出せない」と言われた。行政の人も意識の改革が必要ではないか。配布をお願いした時には若い方もいて、若い方は首をかしげていたので、おかしいと思っていたのだろう。行政にも市民の側にも、若い方の意見は必要である。

#### 【市長】

親切で優しい市役所であるよう、心がけていきたい。

#### 【住民】

今回のような説明会に初めて参加した。とても噛み砕かれた、わかりやすく見やすい資料だと感じた。今後、このようなワークショップはあるのか。

#### 【市長】

ワークショップを開催するのは難しいが、目的や目標があるとやりやすい。現在、実施したいと思っているのは、例えばITについて皆さんの考えを聞く会とか、観光戦略など、テーマ

を決めてやるのであれば、参加する人もしやすいのではないかと思います。

**【住民】**

伊達市で騎馬武者保存会に所属している。すばらしい取組だと思うが、なかなか周知できていない。騎馬武者保存会の周知について、市として考えられる支援はあるか。

**【経済環境部長】**

騎馬武者保存会の皆様には、いつも武者まつりのときにお世話になっている。現在は、毎年武者まつりの時にご協力いただいていること以外には、市として特に動きはないが、騎馬武者行列をやっているお祭りは近隣ではほとんどない。歴女のように歴史に興味を持っている人が増えていることもある。できるできないの話は別だが、要望を直接言っていただくことは必要である。市民の皆さんが活動が続けるに当たって必要なものに対し、行政がどのような形で支援・協力できるかどうか検討していきたいので、皆さんの意見を聞きたい。

**【住民】**

私は最近出産し、子育て中である。ベビーカーで外に出る機会が増え、道路の舗装が気になる。カルチャーセンターは、石畳などで環境は良いが、ベビーカーや車椅子が通れるように整備していただけると助かる。

**【建設部長】**

現在、バリアフリー基本構想を策定している。場所は駅から市役所、病院、大型店などの道路で、今後バリアフリー化していきたいと考えている。今年基本構想を作り、来年以降順次整備できるところから進めるように計画している。

**【市長】**

市役所通りの歩道は、車の入るところが傾斜になっている。以前高齢者の移動手段として、タウンモビリティという計画をつくり実施を試みた時期がある。自転車ではなくて、4輪のバッテリーカーのようなものを活用し、買い物や病院の移動をやってみようとしたら、歩道の傾斜がひどく倒れそうになった。歩道がついていても使いづらい場合がある。しかし、この道路は道道であり、市が勝手に整備するわけにはいけないので、現在道にお願いしているところである。以前、室蘭開発建設部に意見を出したら、一気に工事をしてくれたので、タイミングなども関係する。

バリアフリー構想の実施計画では、それぞれの道路管理者が違っていたり、施設の管理者が違っていたりする。ベビーカーも、高齢者の移動手段としても、歩道は重要なツールになっているので、整備するための計画をしっかりと作っていく。

総合計画の策定に当たり、若い女性の方の意見で、公園が大きなテーマとしてあった。この点も併せて検討していきたい。